

# 生物多様性に配慮したアマモ場造成技術開発調査事業（抄録）

## アマモ類の遺伝的多様性の解析調査

棚田教生

本調査は、水産庁委託「生物多様性に配慮したアマモ場造成技術開発調査事業」のうち、（独）水産総合研究センターが受託した「アマモ類の遺伝的多様性の解析調査」の一部であり、本県では、アマモ類の分布を把握するための種組成調査およびアマモの遺伝子解析のための集団サンプリング調査を実施した。事業の目的および成果の詳細については、「水産庁委託 生物多様性に配慮したアマモ場造成技術開発調査事業 アマモ類の遺伝的多様性の解析調査平成16年度報告書」を参照されたい。

### 成果の概要

#### 種組成調査

県下のアマモ類の分布を調査した。また標本採取場所ごとに、緯度経度、水深等の環境測定を行った。

16年度は県内8箇所（鳴門市折野、大浦、櫛木、堂浦、日出、阿南市答島、椿泊、牟岐町牟岐大島）で実施した。

折野、大浦、櫛木、堂浦、日出、答島からアマモを、椿泊、牟岐大島からアマモとウミヒルモを採取した。

#### 集団サンプリング調査

県下の代表的なアマモ場からアマモ30個体を採取し、草体の一部を凍結保存するとともに（遺伝子解析用標本）、凍結標本を採取した個体の残りから押し葉標本を作成した。また調査地の緯度経度、水深等の環境測定を行った。なお凍結標本は分析機関に送付した。

16年度は県内2箇所（鳴門市堂浦、阿南市答島）で実施した。

#### 次年度の計画

16年度同様、県内2カ所のアマモ場について集団サンプリング調査を実施する。種組成調査では、アマモを中心に、コアマモ、ウミヒルモの発見にも努める。